様式第１号（その２）

記載例

（建設業の場合）

**富山県エコ事業所認定申請書**

令和〇年〇月〇〇日

富山県知事　新田　八朗　殿

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　申請者

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　住　所　　　富山市○○町一丁目２番３号

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　株式会社○□建設

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏　名　　　代表取締役　富山　太郎

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　連絡先

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　所　属　　総務課

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏　名　　高岡　太郎

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　電話番号　０７６－△△△－○○○○

富山県認定エコ事業所としての認定を受けたいので、富山県リサイクル認定事業実施要綱第３条第１項の規定により、関係書類を添えて申請します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 1　認定を受けようとする事業所 | 名称 | 株式会社○△建設　富山事務所 |
| 所在地 | 富山市□□町１－３ |
| 代表者氏名 | 事務所長　　○○　○○ |
| 2　事業所の概要 | 事業内容 | 総合工事業 |
| 業種 | 建設業 |
| 従業員数 | 160　人 |
| 製造品出荷額等 | －　　円／年 |
| 廃棄物排出量 | 4,009　トン／年 |

＜廃棄物の発生抑制、循環利用（再使用・再生利用・熱回収）の取組み＞

|  |  |
| --- | --- |
| 取組みの概要 | ・解体工事や土木工事で発生するアスファルトやコンクリートを全量リサイクル（委託）している。  ・廃プラスチックや金属くず等は分別しリサイクルあるいは有価物化している。 |
| 取組みの効果  　　　　　　注１） | （詳細を下表(廃棄物の発生量及び処分量等)に記載すること）  ・最終処分量を平成30年度において60％削減(例：平成25年度比)した。  ・減量化・循環利用率を93％(平成25年度)から95％(30年度)までに増加した。 |
| 将来の目標 | （令和５年度目標）  ・最終処分量を廃棄物発生量の1％以下に抑える。  ・減量化・循環利用率を98％(平成30年度)から99％(令和５年度)までに増加させる。 |
| 今後の課題、構想等 | ・業界のネットワークを活用し、新たな再生処理ルートを検討したい |
| その他 | 自社で建設・土木工事を請負う際には、自社の廃棄物由来再生品（再生砕石など）を積極的に使用している。 |

注１）取組みの効果は、基準となる年度(概ね５年前)を明確にし、削減率等を具体的に記入すること。

（廃棄物の発生量及び処分量等）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位：トン）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度  注２) | 製品生産量 | 廃棄物発生量 | 減量化量 | 再使用量・熱回収量 | 再生利用量 | 最終処分量 | 減量化・循環利用率（％）  注３) |
| 平成  25年度 | - | 3,331 | - | - | 3,084 | 247 | 93 |
| 28年度 | - | 4,006 | - | - | 3,908 | 98 | 98 |
| 29年度 | - | 4,089 | - | - | 3,942 | 147 | 96 |
| 30年度 | - | 4,009 | - | - | 3,921 | 88 | 98 |

注２）一番上段の年度は、上記の「取組みの効果」で記載している基準年度を記入し、その下には、認定申請時直近の３年度分の実績を記入すること。

注３）減量化・循環利用率＝（減量化量＋再使用量＋熱回収量＋再生利用量)／発生量×100

＜廃棄物の減量化、リサイクル等についての創意工夫による取組み＞

|  |  |
| --- | --- |
| 廃棄物の減量化、リサイクル等に関する工夫の内容  注４） | 産業廃棄物(廃プラスチック)の再生処理によるリサイクル技術の開発  （装置の構造、処理フロー図は別紙のとおり）  これまでリサイクルの用途が限られ、多くが焼却や埋立処分されていた廃プラを、自社で開発した装置で高純度に分離～固形燃料化を一貫してできるようにしたことで、再生材料としての活用が可能となった。  この処理技術では、異種廃棄物の一部混入や形状の違いでも安定した処理が可能で、処理コストの低減化が図られている。  また、騒音、振動、粉じんの環境保全対策も図られている。 |
| 取組みによる効果 | これまでリサイクルの用途が限られていた廃棄物のリサイクルが可能となったことで、資源の有効利用及び埋立処分量の削減を図ることができた。 |
| 今後の課題、構想等 | 現在は廃プラに限って処理を行っているが、処理対象物を広げるとともに、更なる技術開発により、付加価値の高いリサイクル製品としていくことが望まれる。 |
| その他 |  |

注４）自社で開発した技術による手法や既存の技術を改善した手法などを記入すること。

＜環境に配慮した事業活動の取組み＞

|  |  |
| --- | --- |
| ISO14001を取得するなど環境管理システムの構築による環境保全活動の取組み | ○ISO14001の認証取得　（取得年月：平成19年３月）  富山工場の活動を対象とした環境マネジメントシステムを構築し、ISO14001の認証を取得した。 |
| ○その他環境会計、環境報告書の導入  平成19年から毎年環境報告書を発行している。 |
| 取組みの概要  取締役社長を最高経営層とした体制を確立し、環境方針に基づき、  ①環境保全活動の組織、マニュアル等の整備  ②法律、協定の遵守及び自主管理基準の設定、管理  ③環境に関する社会活動による社会貢献  等８つの環境目的を設定している。 |
| 取組みの効果  ・廃棄物の排出量、リサイクル率などについて、環境目標が達成できた。 |
| 省エネルギーやエネルギーの有効利用等の取組み | 取組みの概要  使用する燃料、電気、水道等の使用量を令和５年までにそれぞれ６％、５％、７％の削減（平成25年比）を目標としている。 |
| 取組みの効果  省エネルギーに配慮した機器の導入、プラントの改善効果により、燃料、電気、水道の使用量は平成30年度で３％、３％、５％削減（平成25年比）された。 |
| 環境関係法令の  遵守 | ・ISOの遵守義務に基づいて実行している。  ・産業廃棄物処理業の許可を取得している。 |
| 製品や資材の調達にグリーン購入の実践 | 取組みの概要  紙類、ＯＡ機器などの品目について、判断基準、調達目標を定めたグリーン購入調達方針を運用している。 |
| 取組みの効果  30年度では、すべての品目で調達目標を達成した。 |
| 温室効果ガスの削  減など、地球温暖  化防止への取組み | 温室効果ガスの削減目標  地球温暖化を防止するため、事務所やプラントから排出される二酸化炭素の排出量を令和５年度までに平成25年度比で30％削減することとしている。 |
| 取組みの概要  自然エネルギーによる発電装置の導入、照明、ＯＡ機器の節電の徹底などを実施している。 |
| 取組みの効果  30年度は、ＣＯ２の排出量が25年度比で20％削減された。 |

次の書類を添付すること。

＜添付書類＞

　１　事業所の位置図（廃棄物の保管場所、保管面積、掲示板の有無を明記すること）

　２　廃棄物の排出、処理状況、委託先がわかるフロー図

　３　その他、事業所の取組み状況がわかる書類

廃棄物の排出、処理状況フロー図（平成30年度実績）

最終処分量：88t

その他混合廃棄物

88t

無処理量：0t

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　((株)○○へ委託処理)

発生量：4,009t

がれき類 3,000t

木くず 307t

廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類 307t

金属くず 307t

その他混合廃棄物

88t

中間処理量：

　　　4,009t

再生利用量：3,921t

がれき類 3,000t

木くず 307t

廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類 307t

金属くず 307t

減量化量：0t

再使用量：0t

　　　　　　　　　　　 　　がれき類:(株)○○へ委託処理

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　⇒再生砕石

　　　　　　　　　　　　　木くず:(株) ○○へ委託処理

⇒燃料チップ

廃ﾌﾟﾗ: 自社処理

　　　　 ⇒固形燃料

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 金属くず: (株) ○○へ委託処理

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ⇒金属回収